

千葉県議会議員

関政幸

県政報告

新

第9号

2013年10月発行

身近で分かり易い県政、よりよい千葉県を目指して



県政報告

1

県議会の開催 (9月26日～10月22日)

①県立学校の耐震化推進事業、高齢者の交通事故抑止緊急対策事業、看護師学校施設・設備整備事業などの**129億9700万円**の補正予算、

②**県の新総合計画「新輝け!ちば元気プラン」**等が承認・可決されました。新総合計画では、県内各地域の特性・可能性に着目した「5つのゾーン」

を設定し、各ゾーンにおける県づくりの方向性を示しています。また、計画の進行管理を、PDCA (Plan, Do, Check, Action) の政策評価の手法を活用して行っています。

県政報告

2

千葉リハビリテーションセンターの建て替えを要望 ～本会議での質問①～

緑区に所在する当センターは、医療・福祉の複合施設として、重度の障害を有する方への、高度な医療的ケア、リハビリテーション、さらには社会復帰に向けた就労支援等の福祉的支援など、総合的機能を担っています。また、民間リハビリ施設には、技術的助言や医師の派遣等の支援などを行っており、中核的センターとしての大切な役割も果たしています。

センターに対しては、重症心身障害児等の入所・通園希望者の増加や、脊髄損傷、高次脳機能障害等の重度の障害を有する人に対するリハビリテーションの量的拡充など、**県民ニーズが高まってきている**一方で、開設から32年余りの経過による**施設・設備の老朽化や耐震強度の不足**、居室や訓練室等の**スペース不足の問題**を抱えており、増加する県民ニーズに十分な対応ができていない状況にあります。

設備の老朽化に関しては、今年の猛暑の下で古いエアコンが機能せず、夜中でも扇風機やアイシングを用いて患者対応を行ったという深刻な事態

がありました。

県としては、「今後、センターの県立施設としての**機能・役割を維持・強化していく視点に立った、施設整備のあり方を検討していく**」ことになりませんが、私は、抱える**問題の根本的解決のためには建て替えが必須**と考えます。そして、当センターが民間の施設では代替できない重要な機能と役割を果たしていることを踏まえて、**センターの1日も早い建替えを強く要望**しました。



「車イスに対応できていない狭いトイレ」

県政報告

3

真の意味での資産マネジメントの推進に向けて ～本会議での質問②～

県では、昭和40年代から50年代にかけて学校を中心に多くの施設が建設されてきましたが、今後、それらの**更新費用の集中による県財政の負担増が予測**されています。

このような状況下でも、安全性の確保に必要な維持管理は徹底されなければなりません。一方で、少子高齢化・人口減少が進む中の厳しい財政の下では、**コストの圧縮とライフサイクルコストを踏まえた計画的な対応が不可欠**であり、部局を超えた全庁的な取組は必須となります。

この点に関し、県は、「庁舎等の建物については、将来にわたる費用の全体像を把握するとともに、個々の建物を評価し、**庁舎等の統合による総量縮減、長寿命化や光熱水費の節減などによる維持管理コストの削減**を図っていき、また、インフラ施設のうち、長寿命化計画を策定している橋りょう、河川施設、都市公園施設、流域下水道施設、県営住宅については、**予防保全の実施等により、施設の安全の確保や維持管理費の軽減・平準化に努めていく**」としています。

当然、こういった対応は必須ですが、これで十分とは言えません。例えば、策定済みの長寿命化計画等で対象から外れる資産のコスト負担がどの程度か分かりませんし、県の答弁に言及のない道路やトンネル、さらに車両や船舶などもコスト負担を把握していく必要があると考えます。

問題は、そもそも、県が保有・管理する建物やインフラ施設などの資産の維持管理コストについて、**現状では、全体的な把握ができていない点**です(昨年度のものです)。また、コストの前提として、**把握すべき資産の範囲に関する議論も不十分**です。

そこで、私は、県の保有・管理する建物やインフラ施設などの資産の維持管理にかかる費用の額について、まずは年度毎で、各分野・分類ごとに整理し、総額ないし全体像の把握に努めるよう準備・研究を少しずつ進めていく必要があること、また、年度をまたぐライフサイクルコストの把握についても同様にやっていくべきことを指摘して質問をしました。

これに対し、県からは、「資産の維持管理にかかる費用を将来にわたって確実に把握することは、**資産マネジメントを進めるうえで大変重要**であると考えているが、ただ、全ての資産について総額を把握するには、費用の推計方法、台帳管理のあり方など様々な課題があるため、**他の自治体の取組等も参考にしながら研究していく**。」旨の回答がありました。

資産全体のコスト把握は、**トータルマネジメントや中長期での財政予測や計画を行っていくために必須の基礎情報**であり、また、**次の世代が県政運営していくうえでも必要なデータ**となりますので、きちんと引き継ぐべきものと考えます。

知事に強いリーダーシップの発揮を要望しました。なお、総務防災常任委員会では、さらに質問と要望を行いました。(紙面の都合上で省略します)。

長寿命化計画や指針中の対象外の資産例

- ① H22.9作成「千葉県橋梁長寿命化修繕計画」
→ 対象外:2146橋のうち1370橋
- ② H23.12作成「千葉県県有施設長寿命化指針」
→ 対象外:施設約6900棟・延べ床面積約390万㎡のうち約4900棟・延べ床面積40万㎡。

参考:信号機の年間維持管理コストはいくら?

- ・信号機の数8028基(平成24年度末時点)
- ・コストは10億6788万5000円(平成25年度予算)
(内訳:電気料・回線料・消耗品費・修繕料・保守委託料)
→ 年間で1基あたり約13万3000円の計算。